

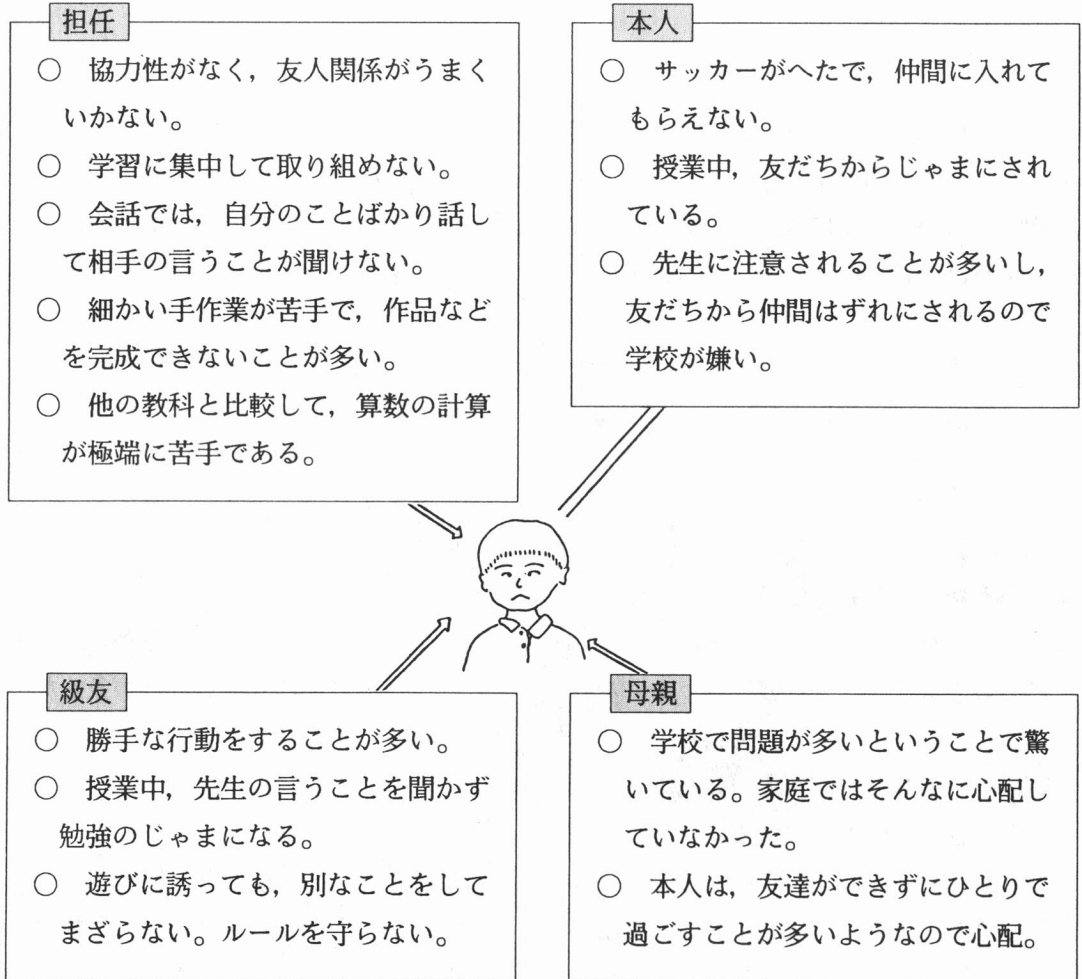
多動傾向(LD)から集団不適応に陥った児童の事例

1. はじめに

この事例は、多動傾向(LD)から集団不適応に陥った小学校3年生男子A男に対して、担任が教育センターとの連携を図りながら指導援助した結果、集団に適応できるようになったものです。

2. 問題の概要

担任からの電話相談とその後の本人、母親、担任との面接相談から



3. 診断

日常行動において、多動傾向、注意集中困難、手先の不器用さなどが目立ったことからLD傾向があると考え、教育相談部嘱託の医師に診察をお願いした。結果は、L

Dと診断された。LDであることから多動傾向、注意集中困難がみられ、それが原因となってA男は級友から疎外され、孤立した感じを持っているものと考えられる。